

東舞子

2017/06/30 (7月号)

神戸市立東舞子小学校

平成29年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

ツバメの子育てに学ぶ

6月に実施いたしました運動会では、大勢の保護者の皆様や地域の方々から温かいご声援と励ましをいただき、子供たちは、それぞれの持てる力を精一杯発揮することができました。本当にありがとうございました。

話は変わりますが、運動会が終わった日の帰り道、自宅近くの商店街を歩いていると、お店の入り口にある軒下に「ツバメの巣」を見つけました。近づいてよく見ると、巣立ち前のツバメの雛が3羽、大きな口を開けて親ツバメの帰りを待っています。子育て中の親ツバメは、何分か毎に餌を捕らえて来ては、忙しく巣を出入りしていました。それこそ、休む間もない様子で、文字通り一生懸命さが伝わってきました。私は、巣から身を乗り出している雛たちが、巣から落ちないかとハラハラしながら見ていました。帰宅後も、ツバメのことが気になって、デジカメをもって商店街まで行きました。親ツバメは、相変わらず餌を捕らえて来ては雛たちに口移しで餌を与えています。私は、親ツバメの懸命の子育てに心の中で拍手を送りました。

さて、4月から3か月が経ち、明日からは7月。「東舞っ子」たちも、学校生活の随所で成長した姿を見せてくれています。ご覧いただいた通り、6年生の子供たちは、見事に運動会で組体操の技を完成させ、仲間との絆を一層深めることができました。また、3年生の子供たちは、環境体験学習で行った六甲自然の家で、六甲山の自然に親しみながら、友達と協力して、観察などのグループ行動をすることができました。この他にも、たくさんの子供たちが、学習活動や休み時間など学校生活の様々な場面で成長した姿を見せてくれています。もちろん、個人差はありますから、成長の度合いや見え方など、子供たち一人一人に違いがあって当たり前です、しかし、目を凝らしてよくよく見ると、どの子にも



「伸び」「成長」が必ずあるものですし、そこに至るまでの子供なりの「努力」「がんばり」が必ずあったはずなのです。私たち大人は、ついつい「そんなことで当たり前」と思ってしまいがちですが、たとえそれが僅かなものであっても、「がんばったね」「よくなってきたね」「すごいなあ」「その調子」と成長を認め、励ましてやる姿勢を持った大人でありたいと改めて思います。

東京の上野動物園では、ジャイアントパンダの赤ちゃんが話題になっています。今回、雄のリーリーと雌のシンシンとの間にできた赤ちゃんですが、実は、5年前にもこの2頭の間に赤ちゃんが誕生し、わずか6日間で死んでしまいました。そんなこともあり、今回は、ジャイアントパンダの赤ちゃんの成長に注目が集まっています。ジャイアントパンダは、野生では中国の限られた場所にしか生息していない、絶滅の恐れのある希少な動物です。そのため、これまでは、産まれてすぐに母親から引き離し、人工飼育されるのが一般的でした。けれども、調査研究の結果、母親の愛情を知らずに育ったジャイアントパンダの赤ちゃんは、成長後も積極性に欠け、大人になっても子育てをしようとしないうなど、課題があることが明らかになってきたそうです。産まれたばかりの赤ちゃんパンダを抱きかかえて授乳しようとするシンシンの母親としての行動は、何か親ツバメに通じるところがあります。

1学期も残すところ3週間。よい締めくくりができますようにご支援、ご協力をお願いします。

校長 梅鉢 泰博